

1月14日に行われた「先端科学技術講演会」についてお伝えします！

概要

1月14日（木）の6、7校時にZOOMを使って、宮城教育大学キャリア研究機構の市瀬智紀教授より、SDGsの17の目標について「なぜいま高校生が地球的課題の解決に立ち向かうのか」という演題でご講演頂きました。

SDGsとはどのようなものなのか、またそれに対する日本の取り組みや他の高校生の見解を学びました。今回は講演会の感想を紹介します。

感想

- 自分たちと同世代の人々が地球の現在や未来について自分の意見を持ち世界に向けて世界が危機状態にあることを警告していることを知り、大人だけの問題として考えてはいけないのだと思った。
- 環境問題は私たちの世代が取り組むべき課題であり、「世界」という大きなくくりだけでなく、「地域社会」という身近な場所にある問題の解決も積極的に行うべきだと感じた。
- 私たちの出来ることは地球環境を身近なことだと捉え、解決策を他人任せではなく自分たちで行える方法で考えるべきだと感じた。
- これからSDGsについて少しずつ学び、一つでも自分事として自分なりに考えたいと思う。また、課題研究を通してSDGsを解決することにつながるような課題を見つけられたら良いと思う。
- 地球温暖化については以前から知ってはいて、自分たちとはかなり遠い話だと思っていたが講演を聴いて決して他人事じゃないんだと気づかされた。また、SDGsの17の目標のために仙台市が主体的に動いていることがとても誇りに思えた。
- 日本はまだあまりSDGsを達成できていないので、僕たちからでも、広い視野で行動し、目標を達成することが必要だと思った。
- 自分と同じ高校生がSDGsについて調べている動画を見て共感すると多かった。特に「どうしても他人事として捉えてしまう」ということが自分と全く同じだったので、これからは別の観点で考えるようにしようと思った。
- これから、SDGsの17の目標はもっと耳にすることが増えていき、大切になっていくと思うため、お話ししていたことを念頭に、自分たちには何が出来るのかを考えて過ごしていきたい。
- SDGsは中学時代からそれこそ大人から押しつけるように言われてきたが、これらの目標が設定された意義を初めて知った。少し難しい史料、内容もあったが、グretaさんの話等を通して私でも概要をつかむことができた。
- SDGsは小学校の教科書から大学入試要項、研究内容にも幅広くより深く教育に結びついていることがわかった。
- 私たちが大人になるまでの間にも世界の課題は深刻化していくことを忘れてはいけないと感じた。



宮城教育大学キャリア研究機構
機構長 市瀬智紀教授



編集後記

今回の講演会ではSDGsの17の目標についての話でした。新型コロナウイルスの影響で、ZOOMを使った講演でしたが、今後の課題研究を進めていく上で参考になるような話をして頂きました。これからの活動に活かしていきましょう。

最後までお読みいただきありがとうございました！！